

ニッチな機能の塗料がSNSで話題に “尖った商品”の開発を続ける老舗メーカー

齋藤塗料 株式会社



齋藤塗料株式会社

昭和2年創業の老舗塗料メーカー。顧客の細かなニーズに向き合い、基材との密着性や伸縮性、耐候・防錆といった機能をとことん追求し、数々の特殊塗料を開発してきました。最近では、DIYやホビー向けの商品でBtoC市場にも進出されています。こうした事業展開の経緯と今後のビジョンを、代表取締役社長の齋藤由美子氏にお伺いしました。

映画のフィルムを溶かして塗料を製造

当社の創業は1927（昭和2）年4月です。前の年の12月25日に大正から昭和に改元があったばかりですので、まだ世間が「昭和」に慣れていない時期だったと思います。曾祖父・齋藤竹重が大阪で「齋藤塗料溶剤製品所」を起業し、塗料の製造販売を始めました。

その頃、宝塚映画製作所という会社の撮影所が兵庫県宝塚市にあり、曾祖父は要らなくなった映画フィルムを買い取り、それを溶かしてラッカー、エナメルなどの塗料を作っていました。戦局が悪化してその映画会社が閉鎖されるまでは、そうして作った塗料を建築業者向けに量り売りしていたようです。

戦後は、復興需要で住宅、ビル、構造物の塗料が必要とされました。光沢や耐久性に優れ木や鉄部の仕上げに適したフタル酸塗料を、高品質かつ大量に供給した当社は「フタル酸の齋藤塗料」と呼ばれるほど業界での地位を高めていました。

その後は工業用塗料が主になっています。デジカメ、パソコン、カーナビなど弱电向けを中心に、プライマー（下塗り塗料）や上塗り塗料を、商社さんを通じて販売してきました。



少量多品種のオーダーメイドに対応できる技術力が強み

急遽、社長に就任。主婦から経営者へ

事業は順調に発展を続け、特殊用途の機能性塗料や環境対応製品の開発に注力して、特色ある塗料メーカーへと歩みを進めていた最中、私の夫、三代目社長の齋藤篤が急逝しました。

私は齋藤家に嫁いできたものの、社業にはタッチしておらず、塗料の知識もほとんどありません。しかし、社員の皆さんから「創業家が継承してほしい」という声が強くなり、私が社長に就くことになりました。2008年のことです。

その直後、リーマンショックが起こり、世界中が大不況に陥ります。当社の売り上げも急激に落ち込み、毎月の販売額が過去最低を更新し続け、もう何をすべきか見当もつかない状況になりました。そんななか、社員さんたちは本当に力になってくれました。開発や製造の方は、お客さんの細かい要望に応え何種類もの塗料を少量ずつでも作って売上を下支えし、事務の方も助成金制度を見つけてきて手続きするなどして、何とか持ちこたえることができました。もともと和気あいあいとした社風だったのですが、経験の乏しい社長のことを心配して、社員の皆さんの結束がそれまで以上に強くなったんだと思います。

コロナ禍の時も大変でしたが、こうした土壌ができていましたので、皆の一致団結で乗り切ることができました。

工業用のニッチな塗料がSNSで「バズった」

当社の強みは、ニーズを聞き取ってそれに適合した塗料を個別に作ることができる技術力にあります。リーマンショック以降は、特にこのオーダーメイド型の比率が高まってきました。



右) 代表取締役社長 斎藤 由美子 氏
左) 取締役営業部長 菅 彰浩 氏

斎藤塗料 株式会社

事業内容：プライマー（下塗り塗料）、特殊用途の塗料の開発、製造、販売

本 社：大阪市淀川区三津屋北3丁目2-4

創 業：1927(昭和2)年4月

従業員数：44 名



会社ホームページへリンクします



要求仕様はさまざまに光沢や防錆性はもちろん、太陽光や風雨への耐候性、基材や上塗り塗料との密着性、さらに塗装面の手触りを求められることもあります。こうした対応を進めているなかで、「印刷機のゴム部品の劣化を防ぐ塗料が作れないか」という相談が舞い込みました。伸縮性と密着性を両立させる難しい注文です。

2019 年、試行錯誤の末に完成したのは、300% 伸ばせて縮んだときもシワにならず、ゴムにピタッと密着する塗料です。これは面白いものができた！とツイッター (X) にあげてみたら、「これ、フィギュアに塗れないかな...」と、思ってもみない反応がありました。それが結構な話題になって「コスプレ衣装に使える」という投稿も続き、サブカルチャーと呼ばれる分野の SNS で「バズった」んです。それなら思い切って一般消費者向けに販売してみようと、『ウレヒーロー』という名前で商品化しました。最初は、エアブラシや筆で塗るための小瓶、続いてスプレー缶も発売し、量販店のホビーコーナーやホームセンターに置いたところ想像以上の売れ行きになりました。



ウレタン系の塗料で、開発者の名前がヒロフミ。伸びる特性なのでヒロを伸ばして「ウレヒーロー」というネーミング。別名「サブカル系塗料」。ウレヒーローは登録商標。

意外な用途に広がる機能性塗料

「ウレヒーロー」は、他にも柔軟素材が多用されるスポーツ用具やウエア向け。皆さんがよくご存知のテーマパークで、独特な世界観を演出する造形物の塗装に利用されています。機能性を追求したさまざまな新商品の開発は現在も続けており、近年では、滑りにくいという機能を持った塗料を開発しました。大手外食チェーンで食器を載せるトレイへの塗装で注目され、大阪・関西万博の会場内で使うトレイにも採用されました。

他社にはない“尖った商品”で勝負！

BtoC でのヒットはもちろんありがたいのですが、やはり当社が基本とするのは、要望に合わせた塗料を開発し、頼られる存在であり続けることだと思っています。2012 年にベトナムに工場を建てたのですが、それも現地に進出した大手メーカーさんが現地調達で困っておられたからでした。いまでは日本と同等品質の塗料を安定供給できるようになって、お客様に大変喜ばれています。

社内では、塗料の開発・製造に必要な熟練技能の継承が長年の課題でした。隣にいる菅部長がベテランと若手の間をつないでくれて、技能伝承はかなり進んでいます。「ウレヒーロー」のお蔭で当社がメディアで紹介されたり、若い方が入社してくれたりで、社内の活気も感じます。実は、菅部長は私の息子なのですが、この流れを引き継いで五代目社長になってもらうことを決めています。

これからも、斎藤塗料ならではの技術力と小回りで、他社が真似できない“尖った商品”づくりを追い求めていきたいと思っています。

— 貴重なお話をいただき、ありがとうございました —